

月次県内経済

概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

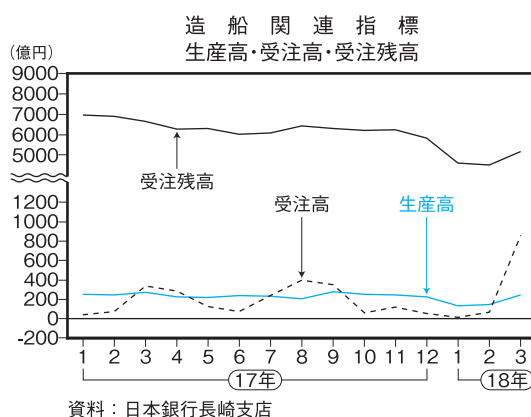
<4月>生産面では大手・中堅造船は一部では操業がやや弱含み、重電機械は堅調、電子部品は増勢。需要面では、公共工事請負金額は前年割れも高水準、新設住宅着工戸数は堅調。個人消費では大型小売店販売額は弱含み、乗用車（登録車）販売台数は持ち直し。観光面は、主要施設の宿泊者数が堅調推移。雇用面では有効求人倍率が1.1倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。5月入り後も生産・投資は底堅く、観光面では持ち直しが続く。

造船

一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

大手・中堅造船では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱みで推移。

地場中小造船では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。

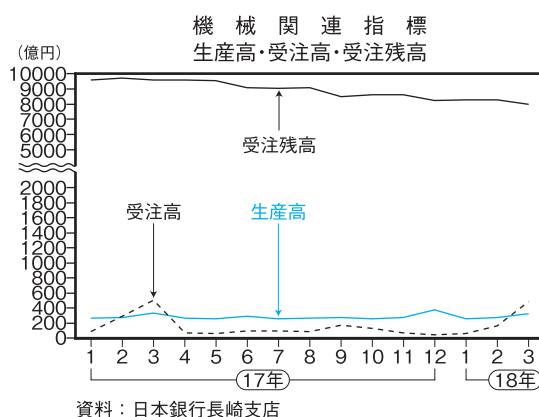


機械

重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増加継続

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は国内外ともに受注が弱含みで推移している。電動機は比較的高めの受注残を背景に一定の操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。

電子部品では、海外との競争など厳しい環境ながら、生産増加継続。



小売商況

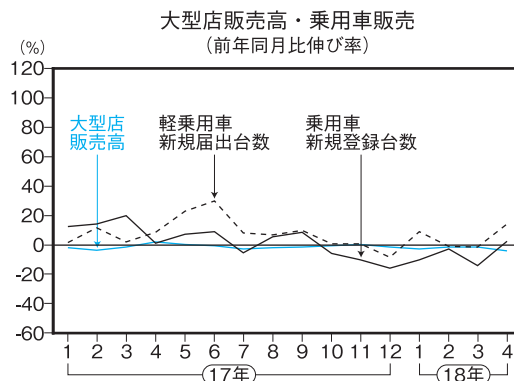
概ね横這い圏内も弱含み

小売商況をみると、4月の県内大型小売店販売額は、前月に続き前年割れ。乗用車販売は登録車、軽乗用車とも前年を上回り、サービス消費面の旅行取扱高も小幅ながら増加。なお、5月度の大型小売店等の売上げについては軟調推移。

4月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は80億円、前年同月比4.3%減（同一店舗比較）と5カ月連続のマイナス。品目別では、飲食料品が2.7%減、衣料品は、主力の婦人服等が7.9%減、紳士服・洋品が4.2%減、身の回り品も9.6%減となるなど全体では7.5%減。このうち、百貨店では、衣料品や身の回り品などが低調。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売上げが続いている。

乗用車販売では、4月の**新規登録台数**は1,474台、前年同月比2.6%増と7カ月振りのプラス。うち普通車は9.8%増の705台、小型車が3.1%減の769台。また、軽乗用車は1,610台、14.1%増となり、2カ月振りの増加。軽を含む総販売台数では3,084台、8.3%増となり7カ月振りに前年を上回った。

サービス消費面では、4月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が、前年同月比1.7%増となり、6カ月連続のプラス。うち、国内旅行が4.7%増で3カ月連続のプラス、海外旅行は4.9%減となり2カ月振りのマイナス。



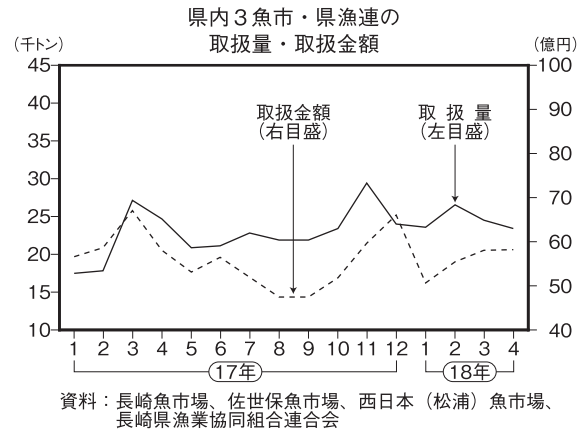
資料：九州経済産業局、日本自動車販売協会連合会
長崎県軽自動車販売店協会

水産

取扱量が減少、金額は前年並み

4月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況を見ると、**取扱量は2.3万トン**、前年同月比5.1%減少するも、**取扱金額は58億円**、同0.1%増と前年並みであった。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比6.8%減少したものの、単価が8.9%上昇し、金額は1.5%増加した。一方、サバは数量が同43.3%増加し、単価も7.8%上昇したことから、金額は54.5%増加した。

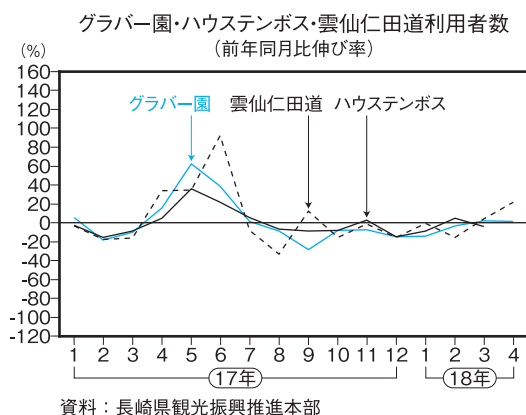


観光

主要施設の入場者数、宿泊客数ともに増加

4月の県内観光をみると、主要観光施設の入場者数と、主要宿泊施設の宿泊客数ともに増加した。**主要観光施設等**（13施設）の入場者は534千人、前年同月比3.6%増と9カ月振りに増加した。地区別にみると、県南地区は前年にスタジオジブリの企画展が開催された長崎歴史文化博物館（41.0%減）が大幅減となったものの、グラバー園（1.3%増）と長崎原爆資料館（7.8%増）は増加した。一方、島原半島では2カ月間のリニューアル工事を終えた雲仙岳災害記念館が3.8倍の大幅増となり、島原城（4.7%増）と雲仙仁田道（21.6%増）も増加した。また、県北地区ではハウステンボスと九十九島パールシーリゾート（20.1%増）、平戸城（26.0%増）が増加し、離島地区でも堂崎天主堂（35.4%増）、一支国博物館（30.6%増）、万松院（10.2%増）のいずれも増加した。

県内主要宿泊施設（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比14.3%増と4カ月連続して増加した。地区別にみると、県南地区が9.7%増加し、県北地区も7カ月連続プラスとなる18.5%増となった。一方、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、雲仙地区の宿泊客数は18千人、前年同月比12.4%増と10カ月振りに増加に転じ、小浜地区も11千人、同4.5%増加した。



公共工事

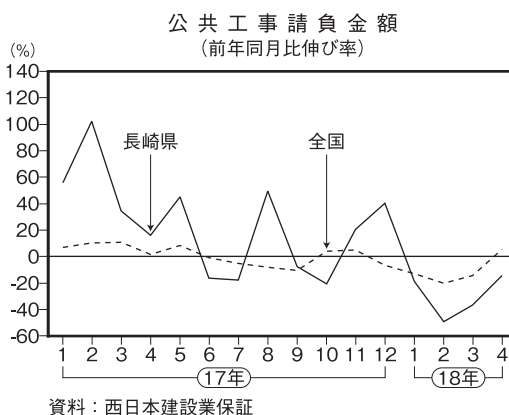
件数、請負金額とも減少

4月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は282件、前年同月比5.1%減となり5カ月連続のマイナス、**請負金額**は436億円、同14.5%減と4カ月連続で前年を下回った。

4月の主要発注者別の**請負金額**では、「国」（10億円、37.2%増）は増加したものの、「県」（150億円、37.0%減）と「市・町」（33億円、42.1%減）は減少した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、諫早地区（164億円、67.5%増）、島原地区（33億円、92.0%増）、下五島地区（11億円、27.4%増）など5地区。一方、長崎地区（188億円、44.1%減）、県北地区（16億円、39.8%減）など5地区は前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構発注の「九州新幹線（西九州）、経ヶ岳トンネル他」（50億円）、長崎県発注の「長崎県立・大村市立一体型図書館及び大村歴史資料館」（仮称）新築工事（3件、49億円）など。



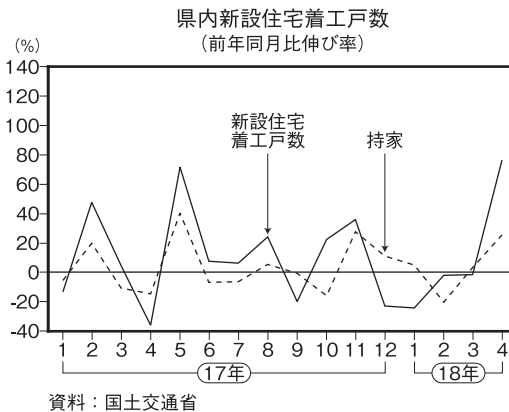
住宅建設

5カ月振りのプラス

4月の**新設住宅着工戸数**は698戸、前年同月比では76.3%増と5カ月振りに前年を上回った。

利用区分別にみると、持家（221戸、25.6%増）、貸家（334戸、65.3%増）、分譲（143戸<うちマンション110戸>、8倍増）、いずれも前年実績を大きく上回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、前年実績を上回ったのは長崎市（331戸、2.4倍増）、大村市（127戸、2.4倍増）、佐世保市（70戸、32.1%増）など11市郡。前年を下回ったのは諫早市（22戸、63.9%減）、島原市（17戸、5.6%減）など6市郡にとどまった。



雇 用

緩やかな改善傾向続く

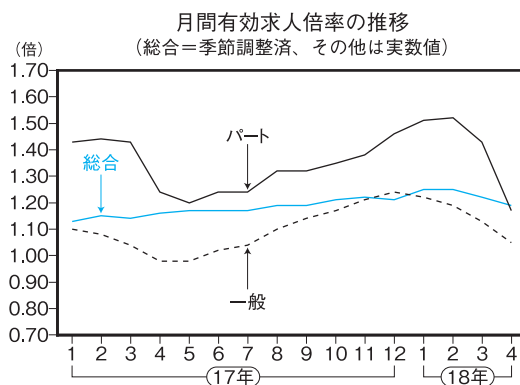
4月の県内の有効求人倍率（季節調整済）は1.19倍となり、2カ月連続の前月比0.03ポイント低下となった。また、全国の有効求人倍率は前月と同水準の1.59倍であった。

新規求人数は10.4千人、前年同月比0.8%減となり、3カ月連続の減少となった。形態別では、一般求人が4.8%増と3カ月振りの増加、パート求人は8.1%減と2カ月振りの減少。主な業種別にみると、製造業（20.8%増）、サービス業（20.1%増）では2桁増、運輸業（1.4%増）、建設業（0.8%増）なども前年を上回ったが、飲食店・宿泊業（12.1%減）、卸売・小売業（7.6%減）などでは前年を下回った。一方、新規求職者数は8.1千人、前年同月比2.4%減となり7カ月連続の減少。形態別では、一般求職者が6.0%減、パート求職者は3.2%増であった。

また、有効求人数は28.2千人、前年同月比1.1%減となり40カ月振りのマイナス、一方、有効求職者数は25.7千人、3.3%減と4カ月連続で前年を下回った。

就職件数は3.0千件となり前年同月と同水準。また、雇用保険受給者実人員は4.3千人、前年同月比4.3%減となった。

県内の雇用データを見ると、緩やかな改善傾向ながら、足もとパートを中心に需給緩和傾向。



資料：長崎労働局

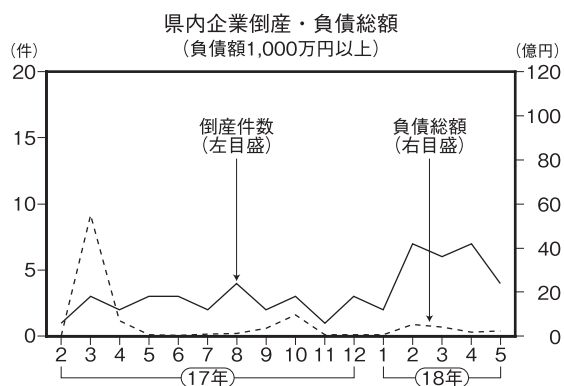
企業倒産

件数・金額とも低水準が続く

5月の県内の企業倒産件数（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比1件増の4件となり、4カ月連続して前年を上回ったが、14年11月以降、43カ月連続の一桁台となるなど低水準。

一方、負債総額は2.5億円と、1億円超の大型倒産がなかった前年同月に比べ1.9億円増加するも、集計開始以来では5番目の低水準となった。

倒産件数を業種別にみると、製造業、建設業、小売業、サービス業がそれぞれ1件ずつ。また、その倒産原因は全て「販売不振」。



資料：東京商工リサーチ